

令和7年7月10日

令和6年度 特別の教育課程の実施状況等について

栃木県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
足利市立青葉小学校	足利市教育委員会	公立

1. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

本市全小学校において、平成15年度より取り組んできた英会話学習の内容と外国語活動・外国語科の内容を関連づけた独自の年間指導計画を作成し、「話すこと」「聞くこと」に特化した指導を行うことで、英語によるコミュニケーション能力の育成を図る。

必要となる教育課程の基準の特例については、「教育課程特例校編成の基本方針等について」を参照。

2. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

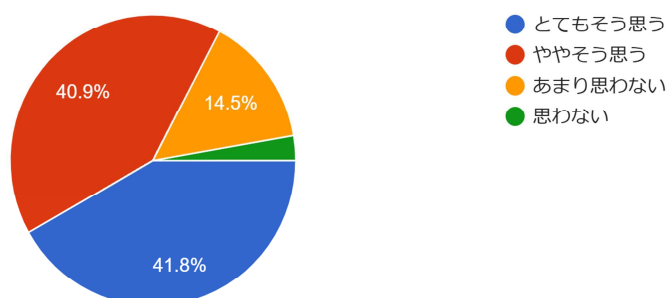
- 計画通り実施できている
- ・一部、計画通り実施できていない
- ・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- ・実施していない

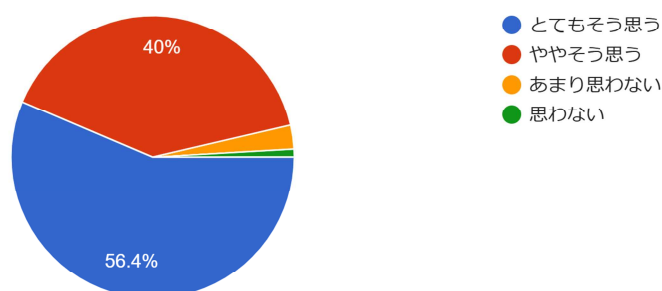
(3) 自校における評価(保護者アンケートより)

1. 1年生からの英会話学習が英語によるコミュニケーションの基礎的な能力の育成につながっていると思いますか。

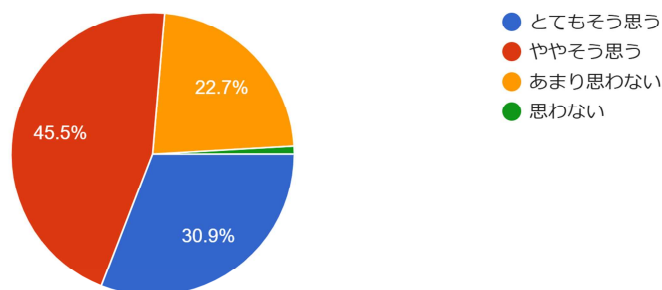


2. 1年生からの英会話学習は、英語に慣れ親しむことにつながっていると思いますか。

110 件の回答



3. 1年生からの英会話学習によって、外国語や外国の文化に対する興味・関心が高まっていると思いますか。



【保護者アンケート・記述より(期待すること)】

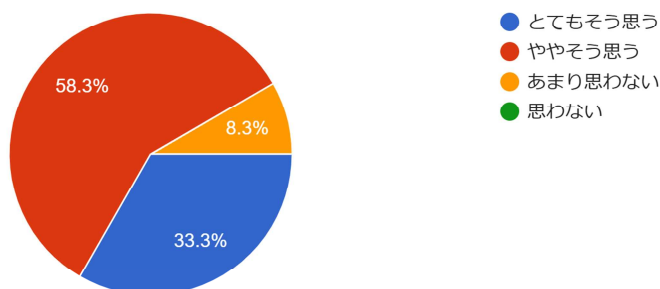
- ・英語に対して、苦手意識を持たないようになることを期待しています。
- ・外国の先生との関わりの中で、世界はつながっていて、どんな国の人でも交流できるということを実感できることを期待します。
- ・英語を身近に感じてもらいたいです。
- ・外国の人とのコミュニケーションに自信を持ってもらいたいです。
- ・しっかりとした発音ができることを期待します。
- ・小さい頃から外国の方とふれあう機会を持つことで、外国の人と接する事への抵抗が低くなることはとてもよいことだと思います。
- ・色々な言語や色々な文化に触れることを期待します。
- ・耳が英語になれてくれることを期待しています。
- ・日常会話ができるようになったらすごく嬉しいです。
- ・英会話を楽しいものだと感じてくれたらよいと思う。
- ・低学年のうちに学習を始めて慣れ親しむことで恥ずかしがったりせずに英会話学習に取り組めるようになると思っています。
- ・自然なかたちでよく使うフレーズを知ることや日常会話程度の聞き取りが自然に身につくことを期待します。

- ・英語を話す将来をイメージすることができると思います。学校の決まった時間だけでは達成できないと思うので、保護者も英語話者とのコミュニケーションの場をつくるなど、機会を作ると相乗効果が期待できると思います。

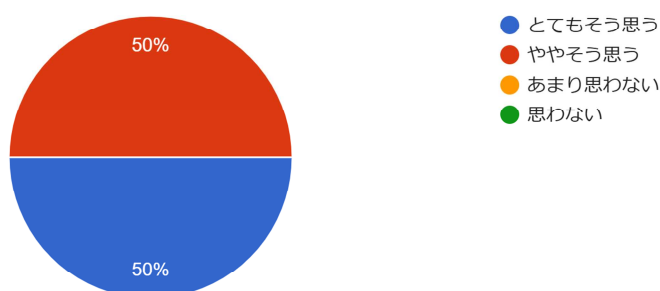
(＊記述の内容をまとめました。)

(4)学校関係者による評価

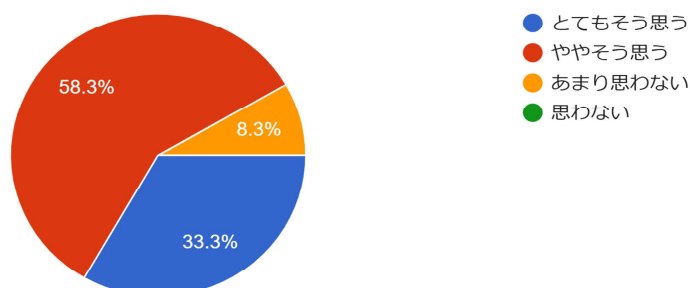
1. 1年生からの英会話学習が英語によるコミュニケーションの基礎的な能力の育成につながっていると思いますか。



2. 1年生からの英会話学習は、英語に慣れ親しむことにつながっていると思いますか。



3. 1年生からの英会話学習によって、外国語や外国の文化に対する興味・関心が高まっていると思いますか。



【教員アンケートより(期待したいこと)】

- ・英語耳の育成。差別や偏見を持たない心の育成を目指したい。
- ・英語を壁と考えるのではなく、コミュニケーションの1つの方法として楽しんで学べるような機会として取り組ませたい。

- ・英語が自然に口に出るようになること。
- ・外国語に慣れ親しむこと。そのために、マンネリ化にならないように工夫したいです。
- ・音素指導やインプットの充実など、月1回ではなくもう少し頻度を増やすことができればもっと効果的だろうと感じます。
- ・外国語に対しての抵抗を無くすことに期待しています。「分からない」から、「何て言っているんだろう。」と感じて欲しいです。
- ・物怖じせずに、外国に行ったり、英語を使ったりしてみたい子を育てたいです。
- ・1年生にも分かりやすい英会話学習であることを意識したいです。
- ・中学校で英会話に抵抗を持たずに学習に臨め、中一ギャップの解消の一つになればいいと思います。
- ・日本の文化を知り、外国の方に発信できることにつながるといいと思います。

3. 実施の効果及び課題

- ・児童は、低学年から英会話や外国人講師に慣れ親しむことで、英会話を身近なものとして感じていることが伺われる。3年生は英語劇を演じたり、4年生は足利観光案内所を英語で開催したりしている。この様子から、児童が自ら英語を話すことに抵抗が少なくなっていると感じている。これは、英会話学習の成果だと思う。また、高学年の英語チャレンジDAYでは、一日中、外国人講師と触れ合い、英語を話すことや聞くことを楽しんでいる様子だった。普段の授業でも、ALTやEAAと英会話を楽しみながら学んでいる児童が多いので、中学校での授業への抵抗も少ないのではないかという期待が持てる。
- ・一方で、「英語は苦手」という意識を持つ児童もいて、「分からないから」「難しいから」という理由で、消極的になっている様子が見られる。低学年の「楽しい英会話」から、「外国語活動」への移行の際のギャップを感じている児童もあり、丁寧な対応が必要だと感じる。
- ・また、期待することとしては、英語塾に行かなくても学校の授業で話せるようになって欲しい、日常生活の中に取り込む英語の授業をしてほしいというような、英会話学習による成果の実感を求める声もあった。低学年の月1回の授業では日常会話ができるレベルまでは難しいだろうという記述も見られた。英会話への親しみを感じさせるとともに、基本的な技能の定着もより力を入れるところだと感じられた。

4. 課題の改善のための取組の方向性

昨年度までと同様、低学年からの英会話授業は、英会話を身近なものと感じられるよい機会になっていると思う。上学年になるにつれての苦手意識を持たせないように、「楽しい」だけではなく、「わかる」「できる」授業を大切にしていくことが必要だと考えられる。そのためには、各単元のゴール(到達目標)を見据えた授業作りが必要となる。「この単元で何をできるようにしたいのか。」「そのための授業展開はどうあるべきか。」といったことを念頭において、スモールステップを意識した授業を組み立てていくようにしていきたい。さらに、児童の実態を把握するためにも終末での振り返りも大切にしたい。また、児童が英会話を身近に感じられるように、英会話の場面作りには、他教科との関連や、必然性のある場面などを考え、ALTやEAAと打合せをすることが必要だと考えられる。本校は、4年生以上が英語専科の教員による授業を行っている。教科専科ならではの、より専門性を生かした場面や、その学年の興味関心に合った場면을提案することも考えて実践していきたい。

授業においては、常時活動を始めとした、ある程度決まった流れにして授業を行うことで、児童が迷うことなく活動に移れるようにしている。また、上学年になる程に、「何のために行うのか」「続けていくとどんな力がたかまっていくか」を説明し、意欲の向上へとつなげていけるようにしている。

英語チャレンジDAYでは、今までインプットしてきたものをアウトプットして、「できた。」(話せた、英語が通じた)喜びを感じたり、自信をつけたりする場を設定していきたい。